

リアル脳卒中 患者200人の生の声

結城 俊也 著 四六判・320頁 定価(本体2,700円+税) ISBN978-4-8169-2708-9 2018年3月刊行

現役理学療法士によるロングインタビュー —脳卒中患者が語った発症後の見方・感じ方

- リハビリテーション医療の専門家である著者が、200人以上に行ったロングインタビューをもとに、脳卒中を発症し生還したものの不自由な状態を抱えている脳卒中者の生の感覚や感情を伝える書です。
- 「あるく」「かく」「はなす」など日常生活に密着したテーマで展開、変化してしまった身体で、どのように周囲の環境と新たな関係性を切り開いていったのかなど、リアルな内面に触れることができます。
- 現場のセラピスト(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士)、看護師、介護福祉士とその学習者、脳卒中患者の家族や友人などにぜひ読んで欲しい一冊です。

【著者プロフィール】

結城 俊也：23年間にわたり千葉中央メディカルセンターに勤務。現在、都内の障害者施設に勤務しながら、図書館等において医療健康講座を開催している。専門理学療法士(神経)、介護支援専門員、博士(医療福祉学)。著書に『認知症予防におすすめ図書館利用術 フレッシュ脳を保ち方』(日外アソシエーツ、2017)、『パッと見てピン! 動作観察で利用者支援 理学療法士による20の提案』(日本図書館協会、2017)が、共編に『リハビリのプロがすすめる 健康寿命を延ばす1000冊』(日外アソシエーツ、2018)がある。

【目次】

第一部 脳卒中者のリアルな世界

にぎる——道具と身体
 あるく——空間を押し広げることの意味
 かんじる——他者を抱え込むという経験
 はなす——会話における身体性
 かく——書道・メモ・日記
 まなざされる——対象化される自己
 いたむ——痛みを切り分けるということ
 くらべる——自尊心維持としての比較行為
 はかなむ——生の有限性への自覚
 あきらめる——あきらめ半分という思想

第二部 語る身体ストーリー

異界と交信する身体 (タヌキに化かされたおばさん…)
 作法としての歩行 (歩行とは作法である…)
 鳶職人の足 (かつて日本人の足は「麗子の足」だった…)
 切断肢と幻肢 (手足を失うということ…)
 動きながら見る人・動かしながら見る人 (遠隔感覚としての視覚…)
 建築様式と身体——畳文化と椅子文化—— (座するという文化…)
 リアリティの基盤としての触覚 (皮膚—触覚の重要性…)
 身体周囲の空間を意識するということ (ペリパーソナルスペースとは…)
 運動経験と「できる感」の発生 (形をなぞるだけではダメ…)
 横並びの関係 (物を片づける人…)

第三部 脳卒中者の支援について

脳卒中者の支援における三つの視点
 身体的側面からの支援/社会的側面からの支援/心理的側面からの支援
 …etc.

■既刊

認知症予防におすすめ図書館利用術 フレッシュ脳を保ち方

結城 俊也 著

A5・180頁 定価(本体2,750円+税) ISBN978-4-8169-2639-6 2017.1刊

リハビリのプロがすすめる 健康寿命を延ばす1000冊

結城 俊也・坂本 宗樹・鈴木 光司・二宮 秀樹 共編

A5・340頁 定価(本体9,250円+税) ISBN978-4-8169-2706-5 2018.2刊

2018.2

お問い合わせは… **日外アソシエーツ 営業局**

TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845

〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <http://www.nichigai.co.jp/>

■貴店名

注文書

リアル脳卒中 患者200人の生の声

定価(本体2,700円+税) ISBN978-4-8169-2708-9

冊



9784816927089

「脳卒中者」の声 抜粋

(「第一部 脳卒中者のリアルな世界」より)

第1章 にぎる

かなりビスの一本一本がはっきりしてきましたね。前はもっとぼんやりしてた。まだ落ちちゃうこともあるけど、でもだいが素早くヒュッとつまめるようになってきた。指の腹がビスの形に合ってきたよね。
(大工職人ナカガワさん・四〇代男性)

第2章 あるく

脳みその力ふりしぼってね、よいしょって足出してますね。でもまだ雲の上歩いている感じで不安ですね。あの、歩けないってことがね、こんなに情けないなんて思わなかったなー。もう、まったくね、別の世界になっちゃったって感じですね。
(元会社員サカイさん・六〇代男性)

第3章 かんじる

こっちの手(麻痺手)に歯磨きのチューブ持たせて、「持っててね」って命令してやるんですけど、ちょっとするとすぐ落ちちゃう。歯磨きのも一苦労。他人の手みたいな感じです。それでクタッとしてすぐに落ちちゃうんですね。「しっかりここに(膝上に)いなさい」って頭で命令するんですけどダメなんですね。暇なときは上げ下げ、こうゆすったり、イボイボのやつ(イボイボのついたゴムボールを握る練習を)やってるんですけど……。
(主婦イケダさん・六〇代女性)

第4章 はなす

僕は長年セールスやってきて、売上もトップクラスやった。だから言葉は非常に大事にしてたな。会社の講習でも講師やってな、話し方のコツをみんなに教えとった。けど、この病気になるたらもうあかん。うまくしゃべれんのかな。声のトーン、抑揚なんかうまくつけられん。もう口がまわらん。顔の表情だってそうよ、笑顔引きつとる。だから相手としゃべっててもリズムに乗れんわな。こないだも前の会社から電話あってな、講師頼まれたけど断った。あんな、もう失礼よ、こんなんじゃたら。完全に、引退よ。
(元会社員タナカさん・六〇代男性)

第5章 かく

これは私の字じゃないね。まったく別人のもんだ。こうね、なんか違うんだなー。字に身が沿っていかないというかね。気がぜんぜん入っていかない。読める、読めないの問題じゃない。こうスーッと流れるようにね、全体として自然にね。表面上だけね、体裁を整えたってしょうがないんですよ。とにかくこれは私の字じゃないですよ。
(書家ササキさん・七〇代男性)

第6章 まなざされる

ファミリーレストラン行っても注文しますでしょ。そうすつと(利き手が)きかないからこっちで(非利き手で)

食べるでしょ。あの、家では心配だから、こういう鏡を置いて見るわけですよ、口にうまく入ったかどうかって。ときどきこの辺(口元)にくっついたりするでしょ。それが心配で外で食べられないですね。家族は「あんたが気にするほど見てないよ」とか言いますけどね、なんとなくそんな目してる気がする。
(元会社員タムラさん・六〇代男性)

第7章 いたむ

お友達に来てね、手さすってくれて、私が手、痛いって言ったからね。私もケガして手をね、痛めたからわかるって。必ず良くなるからがんばんなさいって。もう泣きそうな顔で言ってくれて。まあ、その気持ちはありがたいっていか……。でも違うって。あなたなんかにはわかんないでしよって。なんか同情されてるみたいで嫌だったっていうのがね、正直な気持ちでしたな。
(主婦ナカジマさん・六〇代女性)

第8章 くらべる

やはり、なんて言うんですか、まわりの人の進み具合、気になりますよ。特に自分よりあとに入ってきた人。こないだ車いすだったのが歩行器になった。歩行器が杖になった。その、抜かれたというか、自分はまだそこまでいってないのについていう、まあ、焦りみたいのがありますよ。気にしないようにと思っても気になる。どうしたって比べるんですね。
(元会社員クボさん・六〇代男性)

第9章 はかなむ

もうこの年だし、先はそう長くはないでしょ。だから静かにね、とにかく静かに暮らせればいいかなって。私、今まで動きすぎたんですね。声がかかればすぐ飛んでってたんですよ。でも、こんな病気になったでしょ。なんか、そうね、はかないっていか、すべてははかなく思えちゃって。もうそんなにねえ、これから期待したってあれですから、家、きれいに整理して、静かに暮らせればそれでいい。わずらわしいことはね、もういいですよ。俗世間から離れて静かに。それだけ。それで、そうね、たまに仲いい友達と会っておしゃべりしたりできれば。そんなとこです。
(主婦ミヤケさん・六〇代女性)

第10章 あきらめる

そうですね、いずれは良くなってさ、治るっていう期待はしてるんだけど。障害者っていても自分はいずれ治るって感じがある。今は一時的なもので絶対治る。でも時間がかかるでしょうね。今、芸能人の人も脳梗塞って出て、期間か最高みたいですね。そしてあの長嶋さん、長嶋さんだって最高のきつと治療を受けててもあの程度かっていう、あきらめっていか、そういうのがあるんです。なんか自分で言ってる矛盾があるけど。
(元会社員ユズハラさん・七〇代男性)

《推薦の言葉》

渡邊 裕之(北里大学 医療衛生学部)

脳卒中の病態を理解するためには、患者の声に耳を傾けるべきである。本書は患者の声に隠された治療のヒントを授けてくれる一冊である。

奥出 麻里(植草学園大学・植草学園短期大学図書館)

何気なく日頃おこなっていたことが、思うようにいかない…。脳卒中に罹った人たちの生の声が心に響く。あなたが、あるいはあなたの大切な人が脳卒中になったら？そしてあなたが医療者だったら？本書を手にしたことで明日から何かが変わるかもしれない。

おすすめします

現場のセラピスト

(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士)

看護師、介護福祉士などの

医療福祉スタッフと

その学習者、

脳卒中者の家族や友人に